



通信
大 道 芸



編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄

(daidogeji@kib.biglobe.ne.jp) <http://daidougei.seesaa.net>

『東京風俗志』が載す物売り

右書は平出鏗二郎著が、明治三十二年（一九九九）に刊行した。当初線装本せんそうほん和漢書のち洋装本となったが、内容については同一である。藩政時代そのままや文明開化の影響を受けたものなど、当時の風俗の中から物売りを紹介する。

○麵麭売り 本紙第382号に紹介した「麵麭売り競演」で紹介したので省略

○苗売り 春先に植えるもの
を主に売り初めた。

○よかよか飴 頭の上に飾り提灯をつけ飴の入った盥とも呼ばれたように

○鼠取り 葵売り 猫いらず

○猛毒の

あひさん

朝顔のを苗やアタ顔の才を載せ太鼓で音頭を取りな
重砒酸が原料
苗糸瓜 冬瓜 白瓜の才苗から歌い歩いた。当初は三
いたずら者はおらんかな
などと売り声を上げた 味線弾きもいたが、後には 石見銀山鼠取り

○定齊 熱中症除け薬売り 独りで踊り売った この声を聞くと悪童でも震え

たる側を歩いた。売り声代
 わりに定齊箱の抽斗の鑲を
 ガチャガチャ鳴らした
 屋 太鼓叩いてよかよか
 これでマンマが食べられり
 や暢気な商売止められない
 位の丸く平たい土鉢に綿を薄
 く敷いたものに水を湛えて稗

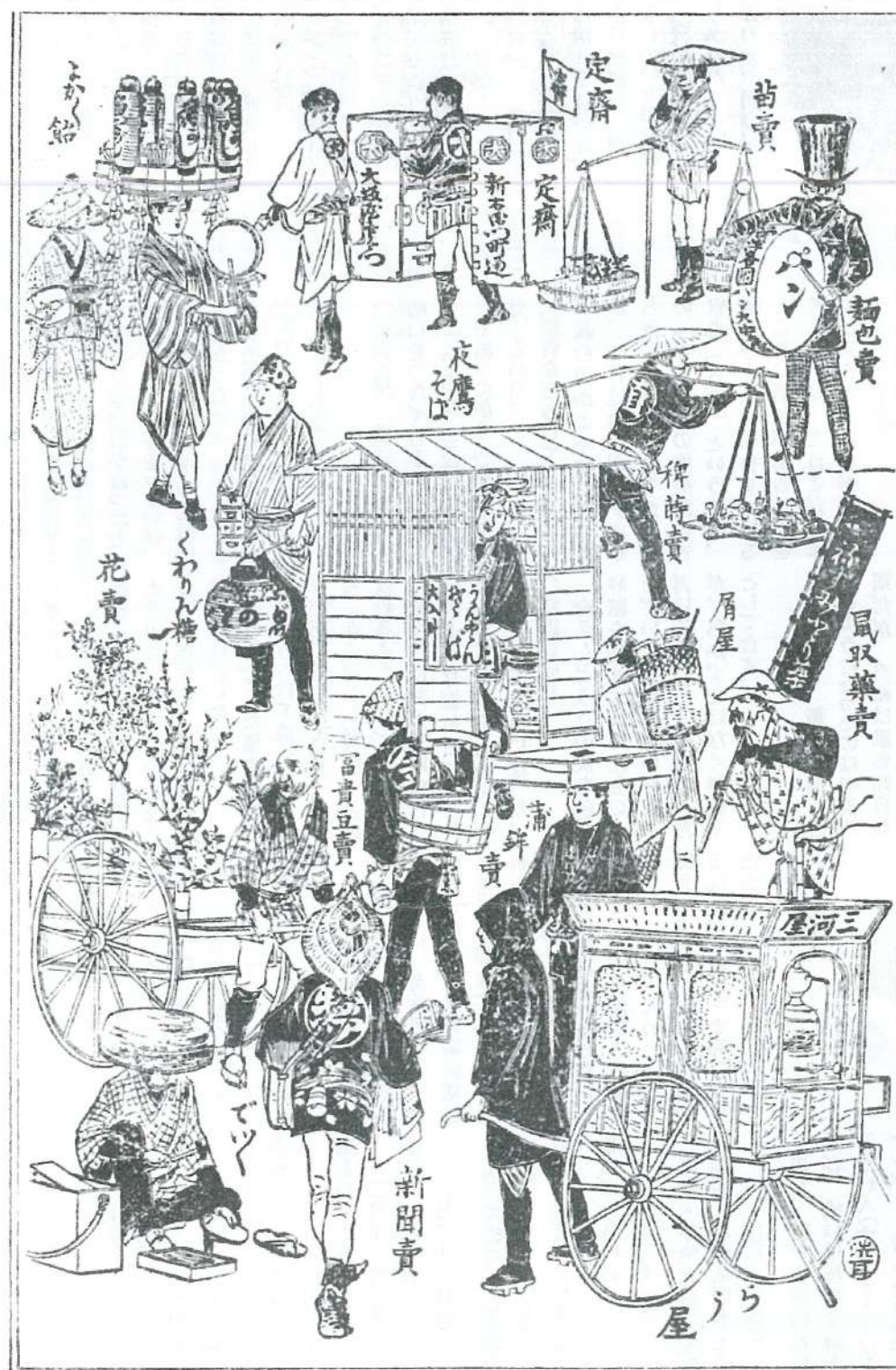
この声を聞くと悪童でも震え

上がったそうなの

○稗苳売り 径二、三十糎

位の丈く平たい土釜に薪を煮
く敷いたものに水を湛えて稗

183



鼠取藥賣

屑屋

屋；ら

新聞賣

富貴豆膏

花

くわりん糖

夜鷹

荀

定齋

定齋

天竺